

7 課「西川さんの家へ」

<行動目標>

日本人の家へ行ったとき、場面と関係性を考えながら、その家の人との交流を楽しむことができる。

<2つのスモールトピック>

ST 1 「初めての訪問」

初めて会った人と、丁寧な日本語を使って話すことができる。

ST 2 「一緒に作りましょう」

よく知っている料理について簡単に作り方を説明することができる。

話してみよう

『できる日本語初中級』の7課のテーマは「西川さんの家へ」です。日本で知り合った人の家に行って、その家族の方と交流することもあるでしょう。ぜひ日本語で楽しい交流ができたらいいなと思っています。

【話してみよう】では、イラストや写真を見ながら、これから始まる課のテーマに学習者を導いていく役割を持っています。初中級では2枚のイラストと1枚の写真になっています。どのイラスト、写真を使うかは学習者に合わせて選んでください。全部使う必要はありません。『できる日本語 初中級教え方ガイド&イラストデータ CD-ROM』のp.49にそれぞれの写真やイラストを用いた場合の質問例があるので、参考にしてみてください。イラストを見ながら、見たことがあるか、同じような状況に遭遇したことがあるかなどを聞いてみてください。イラストから過去の経験を思い出す学習者がいるかもしれないので、イラストをきっかけに学習者の経験を引き出して、話を聞いてみてください。きっといろいろな話が聞けると思います。

【話してみよう】のねらいは、テーマに学習者を引き付けることと、それまでに学んだ日本語を用いてたくさん話すことにあります。教師は学習者が話せるように促したり、他の学習者に質問をしてもらったりしてください。

聞いてみよう

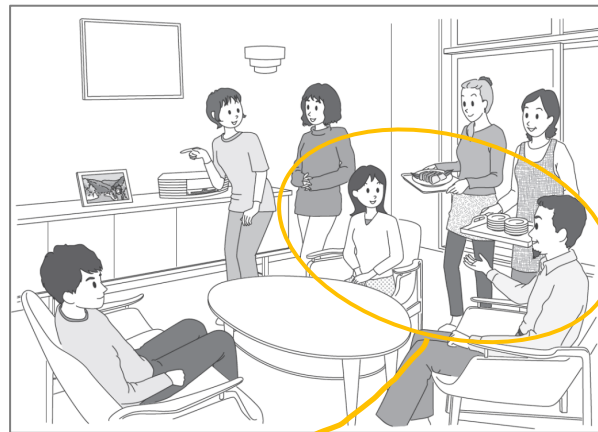
【話してみよう】が終わったら、【聞いてみよう】に移ります。【話してみよう】でテーマについて、学習者の興味が引き寄せられていたら、CDを聞くときには、学習者は聞くことに集中できると思います。既習の学習項目や語彙が増えていることや効果音が使われていることから、どんな状況かがつかめると思います。

ST1 初めての訪問

できること：初めて会った人と、丁寧な日本語を使って話すことができる。

チャレンジ！

状況イラスト：クラスメイトと一緒に西川さんの家へ遊びに行きました。西川さんはお父さんにパクさんたちを紹介しています。挨拶をしたあとで、リビングで西川さんのお父さんと話しています。



1



コマイラスト：西川さんのお父さんがワンさんに話しかけています。ワンさんはお父さんの質問に答えています。

【チャレンジ！】では、状況イラストから入って、この会話がどのような状況で行われているのかを学習者と一緒にやり取りをしながら確認し、コマイラストに入っていきます。【チャレンジ！】ではこれまでに習った学習項目や語彙を使って、日本語で何と言ったらいいかチャレンジします。教師の役目は、吹き出しを指しながら、どのように言ったらいいかを導くことです。

ここでは状況イラストが2枚あります。【チャレンジ！】のコマイラストに入る前に、状況イラストを見ながら、日本人の家に遊びに行ったとき、どんなやり取りをするか、学習者と考えてみてください。玄関先で西川さんがパクさんたちを紹介したり、家の中に入

るときに「お邪魔します」と挨拶したりしています。そのようなやり取りをしてから、CDを聞くと、日本語がキャッチしやすくなると思います。【チャレンジ!】1のスク립トに書かれている最初の6行はこの玄関先でのやり取りです。

この【チャレンジ!】では、お父さんはワンさんと初対面であるということがポイントになります。既習の学習者の中には敬語は目上の人と話す場合に使われると思っている人がいるかもしれません。ここでは、敬語が相手との親疎によっても用いられることに気が付くいい機会になると思います。

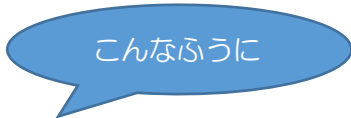
学習項目 特別な尊敬語



【チャレンジ!】のCDを聞くと、「あれ? コマイラストと同じじゃない!」と思われたかもしれません。初中級では、状況イラスト内での会話もスク립トの中に入っていることがあります。【チャレンジ!】をする際に、状況イラストを用いて、学習者とやり取りをしてからCDを聞くと、日本語が聞き取りやすくなると思います。

言ってみよう 別冊1

教科書の232ページに「特別な敬語」の表があります。表にはマス形と辞書形が載せてありますが、ナイ形やテ形などの活用がわかると、練習2がスムーズに進められるので、活用の練習もしてください。



このようなプリントを作成して、活用の確認と練習をしています。

第7課ST1 1 特別な尊敬語				
	マス形	辞書形	ナイ形	テ形
行きます	←	←	←	←
来ます				
います				
食べます	←	←	←	←
飲みます				
言います	←	←	←	←
します	←	←	←	←
見ます	←	←	←	←
知っています	←	←	←	

練習2では短文の練習です。特別な尊敬語を聞いて、すぐに反応できるような練習があると思います。例えば、教師が動詞を言って、学習者はその動詞の尊敬語を言う、または教師が尊敬語を言って、学習者が該当の動詞を答えるなどです。学習者同士でのペア練習もできます。練習3はやり取りの形になっています。Aは尊敬語で質問していますが、Bは自分の動作を答えるので、尊敬語を使っていません。尊敬語を使うだけでなく、①「兄弟」は「ご兄弟」、④「どこ」は「どちら」、⑥「仕事」は「お仕事」になることにも気をつけてください。

言ってみよう

本冊1

ここでの練習は、いつも一緒に勉強しているクラスメイト同士でも、ちょっと改まった雰囲気、練習に取り組んでみましょう。

ここでも教科書を見ないで、初対面での会話が練習できるといいと思います。

チャレンジ！

2

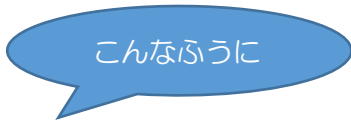


コマイラスト：西川さんのお父さんと話しているワンさんが、今度はお父さんに休みの日について質問をしています。

【チャレンジ！】のコマイラストは流れを持ったイラストになっているので、ここでは、【チャレンジ！】1から見ていきましょう。【チャレンジ！】の際、敬語を使おうとしてもわからなくて、何と言ったらいいかとまどっている学習者がいたら、敬語を使わずに言うならどのようにいふかと促してください。そして、ワンさんと西川さんのお父さんの関係についても一度学習者に聞いてみてから、CDを聞くといいと思います。

学習項目 おVになります

この「おVになります」で使われる動詞には使えない動詞もあるので、注意が必要です。



このようなプリントを作成して練習をしています。

第7課ST1 ②

お になります。

聞きます ⇒ お聞きます。

× 見ます 寝ます します……


買います	
書きます	
話します	
飲みます	
読みます	
作ります	
療ります	
見ます	
寝ます	

言ってみよう 別冊 ②

練習 1 の⑤の「誰」は「どなた」、⑥の「どこ」は「どちら」になること合わせて、練習してください。

練習 2 は、やり取りの練習です。別冊 ① 同様、相手に質問するときは尊敬語を使っていますが、自分のことを答えるときには使わないことを確認してください。

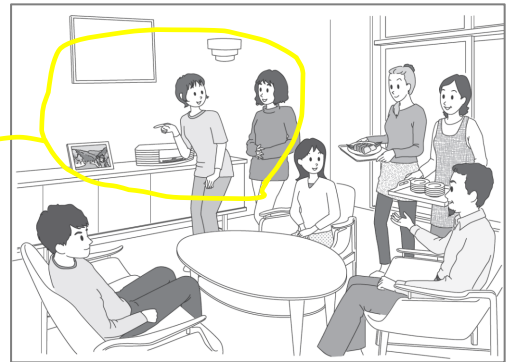
言ってみよう 本冊 ②

このやり取りの中には  があるので、どんな質問ができるか、学習者に自由に考えてもらいましょう。必ずしも解答例と同じ質問でなくても大丈夫です。やり取りの流れはシンプルなので、練習の際には、教科書を見ないで、練習をしてみるのもいいと思います。

例 1 と例 2 があります。これは会話の流れ上、②の学習項目である「お～になります」を必ず使うとは限らないからです。「お～になります」が使えない動詞を使う場合は、例 2 のように①で学んだ特別な尊敬語を使います。②「します」③「見ます」が例 2 に該当します。

チャレンジ!

状況イラスト：リビングルームで西川さんの家族とおしゃべりをしています。



3



コマイラスト：パクさんは棚の上にある写真に気づいて、西川さんのお姉さんに話しかけています。お姉さんとは年齢が近そうです。

学習項目 尊敬動詞

言ってみよう 別冊3

2グループと3グループの「来る」の尊敬動詞は可能動詞と同じです。練習3はBの答えのキューがありますが、例、①、②などは自分の答えを答えてもいいと思います。

こんなふうに①

このようなプリントを作成して練習をしています。

第7課S11 ③ 尊敬動詞

1グループ ~ます (聞きます) ⇒ ~られます (聞かれます)

2グループ ~ます (食べます) ⇒ ~られます (食べられます)

3グループ します⇒されます 来ます⇒来られます

1グループ		2グループ	
聞きます	聞かれます	食べます	
書きます		寝ます	
行きます		起きます	
話します		見ます	
持ちます		着ます	
運びます		やめます	
読みます			
飲みます		3グループ	
作ります		します	
振ります		出席します	
帰ります		引越します	
		来ます	

こんなふうに②

練習3では、学習者が使いそうな質問を準備して、練習をしました。ちょうどビジターセッションの予定が近かったので、そのときに使えたらいいと思い、下記のようなキューを考えてみました。

- ・今、大学/専門学校で何を勉強されていますか。
- ・今、どんなお仕事をされていますか。
- ・週末、よく何をされていますか。
- ・～さんも今度のイベントに参加されますか。

教師が考えるキューだけではなく、学習者がどんな質問をしたいかも考えてもらいました。

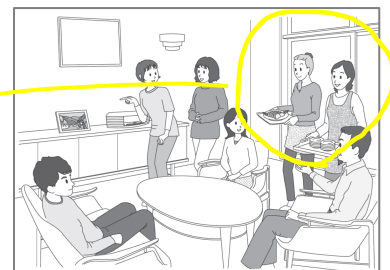
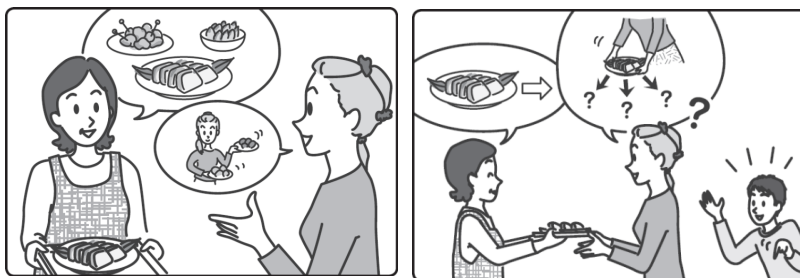
言ってみよう

本冊③

別冊の練習が終わったら、再度、【チャレンジ!】のイラストを見て、会話を再現してから、本冊の例に入ってってください。ここでは、目の前にある物に注目して、会話を始めます。このように趣味や生活の話などから、自分から話題を広げて話を続けることができるようになったらいいと思います。ここでは①～③のキューがありますが、イラストを見ながら、どんな質問ができるかを考えてもいいと思います。例の会話は話のきっかけになっているところまでですが、クラスのレベルによっては会話を ABA で終わらせずに、さらに長く続けられると、【やってみよう】での会話練習や【できる!】で実際に交流するときに、今勉強していることをどのようにつなげたらいいか、学習者がわかるようになると思います。キューは3つだけですが、イラストを他にも用意すると、練習の数を増やすことができます。

チャレンジ!

4



コマイラスト：西川さんのお母さんが料理をリビングルームに持っていきようとしています。アンナさんはその様子を見て手伝おうと思い、お母さんに声をかけます。

ここの学習項目は謙譲表現の「お～します」「ご～します」です。CDでは「お手伝いしましょうか」のように申し出の「～ましょうか」と一緒に使われています。「手伝いしましょうか」は初級7課で学習していますが、「お手伝いしましょうか」と今回の学習項目と合わせて提示されていると混乱する学習者もいるかもしれません。自分の動作を下げて相手に敬意を表すために「お～します」「ご～します」が使われていることがここの学習項目だということにしっかりと焦点が当たるように板書に工夫が必要です。

お手伝いしましょうか。

お手伝いします。

この「おVします」「ごNします」を使うのは、相手との関わりがある場合に用いられます。例えば、「私はよく小説をお読みします」などに注意しましょう。

学習項目 おVします、ごNします


言ってみよう

別冊4

文字を見ながらの練習だけではなく、教師がある状況を口頭で行って、そのときどのように言うかという練習もできます。例えば、「前に荷物をたくさん持っている人がいます。どうしますか」「パーティーで料理がお客さんから遠くにあります」などと言って、学習者がどのように言うか、練習になります。


言ってみよう

本冊4

「Vましょうか」と一緒に使う練習です。Bは  があります。「ありがとうございます」に続けていろいろ言えるといいと思います。例えば、①では「ありがとうございます。じゃ、隣の部屋に持って行ってもらえませんか」とか、②では「ありがとうございます。これ、とってもおいしいですね」など実際の会話をイメージして学習者が発話できるように促してください。

やってみよう

ST1の「できること」は、「初めて会った人と、丁寧な日本語を使って話すことができます」です。

 CDには3つの会話があります。2人が何について話しているかをa～fの中から選びます。選択肢は初めて会った人とのやり取りでよく出てくるおしゃべりのテーマになっています。答え合わせをするだけではなく、会話のどんな言葉からその答えを選んだかということも聞いてみるといいと思います。また、それぞれの会話がどんなふうにつながっているかを、一緒に考えてみると、タスクをする際の参考になります。この会話の続きがどうなるかも考えてもいいでしょう。

■ 教科書にあるイラストは 4 枚ですが、イラストとイラストの間の会話も考えるようにしてください。特に 3 枚目と 4 枚目には他にもいろいろな話題が入ることを期待しています。その際、CD の選択肢内の話題を参考にしながら、たくさんおしゃべりをする練習をするようにしてください。

ペアで練習する前に、クラス全体で、日本人の家を訪ねたとき、どんな挨拶や会話をしたらいいか確認しておくといいです。「お邪魔します」「どうぞ入ってください」や帰るときには「今日はありがとうございました」、「またいつでも来てください」といった日本語が使えるといいと思います。登場人物が 3 人になっているので、3 人で会話を考えると、イラストに合わせて会話が進めやすくなると思います。田中さん役が一方向的に質問するのではなく、訪問した留学生も田中さんに質問をするように促してください。



【やってみよう】が盛り上がらない…とお悩みの先生方がいらっしゃったら、【言ってみよう】の見方を変えてくださいとアドバイスをします！

『できる日本語』の【言ってみよう】が文法を使った「ただの会話練習」とお思いになっていませんか??? 違うんです!! 【言ってみよう】は【やってみよう】というスモールトピックのゴールに向かっているステップの一つです。

7 課の ST1 では、実際に人との交流を楽しむために、丁寧な日本語を使って話すというのがそのゴールです。【言ってみよう】も実際の交流をイメージしながら練習すると、【やってみよう】との関係もわかりやすくなると思います。

ST2 一緒に作りましょう

できること：よく知っている料理について簡単に作り方を説明することができる。

チャレンジ！

状況イラスト：

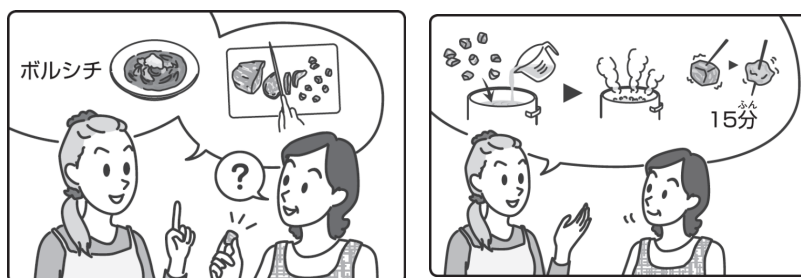
アンナさんは西川さんの家でお母さんと一緒にロシア料理を作ります。今、台所で一緒に料理を作っています。



ST1 でアンナさんは交流会で友達になった西川さんの家へ初めて遊びに来ました。アンナさんは料理が好きなので、その日も西川さんのお母さんを手伝っていました（教科書 p.93 の状況イラスト参照）。台所ではお母さんとアンナさんのやり取りの中に、ロシア料理の話題も出て、西川さんのお母さんがロシア料理に興味を持ってきて今回の訪問につながっています。学習者たちの実際の交流も一度きりではなく続いてほしいと思っています。



1



コマイラスト：アンナさんは西川さんのお母さんにボルシチの作り方を教えます。西川さんのお母さんは初めて作るので、アンナさんの説明を聞いています。アンナさんは材料をどのように切るか、それから何をするかを話しています。

相手が知らない料理の作り方を説明するとき、どんな手順で説明したらいいかが考えられるといいと思います。「ボルシチ」を聞いたことも食べたこともない学習者がいると思います。写真などでこんな料理だと見せると、どんな料理かイメージできるのではないかと思います。【チャレンジ！】では肉をどのように切っているのか、1 枚目のコマイラスト

のアンナさんの吹き出しの中にある小さく切った肉のイラストに注目してください。コマイラストの2枚目もボルシチの説明の部分ですから、学習者にチャレンジをしてもらってから、CDを聞いてください。チャレンジをする際には、解答例と同じ日本語でなくてもかまいません。イラストに沿った内容であれば大丈夫です。CDを聞いたとき、こんな表現もできるということを、学習者と確認をしてください。

学習項目 イAくV、ナA・NにV（形容詞の副詞的用法）

言ってみよう

別冊1

いろいろな野菜の名前が出てきますが、学習者の中にはすでに知っている人がいると思います。文字のキューを用いて練習するだけではなく、料理のサイトなどに切り方などの写真があるので、それらを用いて言う練習もできます。「細かい」と「細い」は同じ漢字が使われているので、どんな違いがあるか、押さえられるといいと思います。この別冊では、料理に関する語彙での練習しかありませんが、「上手に歌を歌うことができます」「大きく字を書きます」などの練習もするといいです。

言ってみよう

本冊1

【チャレンジ!】のイラストに戻り、材料をどのように切るかを相手に教えている場面であることをもう一度確認します。キューのイラストを用い、ペアで練習をします。例はBの「このくらいでいいですか」に対して、Aは「はい」と言っていますが、学習者に「はい」以外に、「あ、もう少し大きく切ってください」など他にもどんな答え方ができるかを考えてもらうのもいいでしょう。「このくらいでいいですか」の助詞「で」は間違えやすいので注意が必要です。

チャレンジ!

2



コマイラスト: アンナさんはボルシチの作り方の次のステップを説明しています。肉を茹でている間に、野菜を切ります。西川さんのお母さんは見慣れない野菜があるので、その野菜について聞いています。

【チャレンジ！】で大切なのは、ただイラストの台詞を再現するだけではなく、会話の中で使われている学習項目の意味の理解がしやすくなるようなやり取りをすることです。ここでは、アンナさんの吹き出しにある鍋のイラストを見て、学習者から「肉をゆでます」と出てきたら、その下にある野菜のイラストを指します。そうすることで、学習者はどこにフォーカスをして言えばいいのかがわかると思います。そして、CDを聞く前に、教師がもう一度、イラストを指しながら、「肉をゆでています」「野菜を切ります」を何と言ったらいかに注目するように、学習者に言ってください。学習項目は1枚目の左のイラストに出てきますが、チャレンジは全部してください。既習の学習項目が自然に繰り返し復習できるようになっています。

学習項目 V ている間に、～

言ってみよう 本冊 2

ここはA、Bの2ターンだけのやり取りですが、この続きを考える（BがAにどんな質問をするか）を考えるのもいいと思います。いろいろな質問を考えることができます。新出語彙がイラストでたくさん出ているので、注意してください。ここでは「煮る」「みそ汁」「焼く」「ソース」「ゼリー」「冷やす」「沸かす」「カップ」が新出語彙です。

チャレンジ！



3-1



コマイラスト：肉がやわらかくなったので、アンナさんは鍋から取り出しています。西川さんのお母さんに次の手順を説明しています。アンナさんは火の調整やどのくらい煮るのかについて話しています。

この学習項目はコマイラストの2枚目にありますが、必ず1枚目から【チャレンジ！】

をしてください。【チャレンジ!】の中には新出語彙が入っていますが、まずは学習者に言ってもらいましょう。分からないからといって、口を閉ざしている学習者がいたら、知っている日本語でどういったらいいかと促してください。

学習項目 イAくします ナA・Nにします

言ってみよう 別冊 ③

別冊のイラストの手に注目をするようにしてください。「なります」(初級 10 課で既出)との違いがわかると思います。『わたしの文法ノート初中級』p.59 に練習があります。「イAくします ナA・Nにします」の「します」の部分が、「してください」「してもらえませんか」のように使えることも紹介できます。

言ってみよう 本冊 ③-1

料理の作り方や機械の操作など、手順について説明するとき、「～たら、～く/にします」という複文はよく使われます。ここでは料理の手順の一つを説明している場面で、「～たら、～く/にしてください」と使っています。

チャレンジ!

③-2



コマイラスト：30 分後、鍋からいい匂いがします。アンナさんは味付けについて説明をしています。西川さんのお母さんはボルシチが気に入ったようです。最後に、アンナさんは、ボルシチのおいしい食べ方についても話しています。

ここまでアンナさんと西川さんのお母さんのやりとりを見てきたので、このコマイラストの 1 枚目を見たら、学習者もボルシチが煮えてきたイメージができるのではないのでしょうか。料理の手順を紹介するとき、最後にちょっとしたおいしく食べるコツなどが紹介されます。学習者が料理を紹介するときにも、このような「コツ」が付け加えられるといいと思

います。


学習項目 イAくします ナA・Nにします

言ってみよう 本冊 ③-2

学習項目は同じですが、ここは料理の作り方の紹介の最後に「ちょっとしたポイント」を言っているところです。【やってみよう】で料理の作り方を紹介するので、学習者がよく食べている物や有名な料理を紹介するとき、それはどんな味か、食べるときにどんな食べ方があるのか、おいしく食べるコツがあるかどうかなどを聞いてみてください。

やってみよう

ST2の「できること」は「よく知っている料理について簡単に作り方を説明することができる」です。

 CDを聞く前に、メモの材料や手順のa～eを一緒に見てみましょう。メモの順番が確認できたら、手順を説明するときに、どんな言葉が使われていたか、学習者に聞いてください。例えば、1の答えはdですが、このときに、「ジャガイモとニンジン小さく切っておきます」のように「ておきます」(6課既出)が使われていたことに注目してください。このようにそれぞれの答えを確認する際に、CDの中の表現をもう一度確認できると、学習者がタスクをする際にやりやすくなると思います。他にも「まず、次に」といった手順を表す言葉を使うと、聞いている人に順番がわかりやすくなるということも紹介してください。

■ 知っている料理の作り方をクラスメイトに教え合います。

学習者の中には、料理ができない、知らないという人もいます。そのような場合、国でよく食べられている料理や自分が好きな料理について紹介することもできると促してください。実際に料理を作る機会があったらいいのですが、それが難しい場合は、書いたレシピを交換し合って読み、「今度こんな料理を作ってみたい」という料理はどれかを選ぶという活動にもできると思います。実際に、教室では、韓国の学習者が書いた簡単な韓国料理のレシピを見て、韓国のポップカルチャーに興味を持っている中国の学習者が家で作ってみたという話をしてくれたこともあります。それぞれが書いたレシピ集が新たなつながりが生まれるきっかけになります。

クラスのレベルに合わせてキッチン道具や調理の語彙をまとめて、プリントで紹介するのもいいと思います。学習者が自分が紹介したい料理に合わせて、語彙を選ぶことができます。



こんなふうに

台湾で社会人クラスでの実践紹介です。

最近ではネット上で料理の作り方の動画をたくさん見ることができます。このクラスでは、台湾でよく知られている料理番組を用いて、それを日本語にしながら紹介するというタスクをしてみました。ペアになってどの料理を紹介するか動画を選んでもらいました。発表する際、料理人が話している内容をすべて日本語にする必要はないこと、この料理を初めて作る人がわかる内容にして、発表するようにと言いました。プロジェクターで動画を映し出し、動画の音声はオフにして、発表者に日本語で話してもらいました。

できる！

この課の行動目標は、「日本人の家へ行ったとき、場面と関係性を考えながら、その家の人との交流を楽しむことができる」です。この7課のワンさんたちのように、実際に家を訪問することができたら、そのときの報告をする時間があるといいですね。そのような機会が難しい場合、教室にゲストを招くのも一つの方法です。学習者たちが日本語を使いながら、相手とやり取りを楽しむことができたらいいと思います。グループでどんなことを話したいか事前にまとめておくと、時間を有効に使うことができます。ゲストのほうにも学習者たちにどんなことを聞きたいか、質問を考えておいてもらうといいです。当日はどんな話をしたか、教室で共有する時間を取りましょう。

以下、【できる！】の実践例をご紹介します。

【できる！】実践例

- ・ビジターセッションを行う。
(大学生、地域の方、ボランティアの方々)
- ・地域のイベントに参加して、他の参加者と交流をする。
- ・周りの人にインタビューをして、報告をする。
- ・『わたしの文法ノート』p.63の「花」のイラストを使って、ホームビジットの会話を作成する。

